

カエデ 雑記

奈良場 正一

その1 三島郡三島町のカエデ類について

三島町では、平成6年11月から2年余りの歳月をかけ、樹木調査を実施し、平成9年3月「町の名木100選」を選定した。

そのなかではカエデ科では、3種5件が選ばれた。

・アカイタヤ：七日市字林割 幹周272cm 樹高20m

小木ノ城山の樹叢中にあるアカイタヤ幹周380cm (1993出雲町教育委員会発行小城ノ城山の樹叢) よりは小さいが、杉林中に成育しており、よく伐採を免れたと思われる。

・ミツデカエデ：中永小木城川沿い 幹周64cm 樹高8m (写真1)



写真1 中永小木城川右岸 ミツデカエデ 2001. 9. 26

西山丘陵では稀産、小木城川の右岸崖上に、株立ち状に11本あるなかの最大のもの。

・イロハモミジ：

①脇野町 長照寺境内 幹周210cm 樹高8cm (写真2)



写真2 脇野町長照寺 イロハモミジ 1996. 12. 1

②鳥越字松原 (小坂孝一所有) 幹周205cm 樹高14m

③上岩井 西照寺境内 幹周205cm 樹高14m

いずれも植栽されたもの、①は高雄もみじの言い伝えあり、②は山中であるが以前人家の屋敷内、現在は杉林中で生育に支障がある。

なお上記のほか、三島町内に生育する野生のカエデ科樹木は、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ、チドリノキ、ハウチワカエデ、ヤマモミジがあるが、チドリノキ (蓮花寺

幹周20.5cm) は、小木ノ城山の樹叢中の幹周80cmには及ばないが分布上興味深い。

その2 メグスリノキの結実

自宅裏山に、1992年に植えたメグスリノキがある。

今年の春、新芽の成長が例年より遅く、葉も小さいのに気づき、テッポウムシにやられたかと根本を調べたら、苗木を植えたとき、支柱に結んだビニール紐が、そのままになっていて、幹に食い込んだ状態になっていた。

もうすでに樹皮も被って、引張っても取れないので、仕方なくそのままにしておいた。

6月にどうなったか見たら、小さな木なのに (樹高2.6m。根回り12cm) 種子が多数ついていた (写真3・4)。



写真3 メグスリノキの翼果 2001. 8. 29



写真4 メグスリノキにビニール紐がくいこんだ 2001. 8. 29

以前津南町穴藤にあるメグスリノキ (津南町天然記念物) の種子の写真を、望遠レンズをつけ苦勞して撮ったことがあったが、これは眼の高さなので楽に撮れた。

花の時期を見逃したのが残念であった。

それにしても、大木にならないと種子がつかないと思っていたが、紐で樹皮を締められたためだろうか。

昔の人が実のつかない柿の幹を、養分の移動を妨げるため、なたで傷つけたというが、これと同じ効果があったのであろうか。

育種の参考になるかと思ひここに記した。

なおメグスリノキの種子は、どれを割っても中に実は入っていなかった。

雌雄異株で雄株がないのに結実したり、不思議がいっぱいなので、今後も見守っていきたい。